

イノベーションの歩み

社名の由来

Maximum Capacity Dry Cell

創業製品である乾電池のブランド名『Maxell (Maximum Capacity Dry Cell =最高の性能を持った乾電池)』に由来します。



創業

1961

日東電気工業株式会社(現日東電工株式会社)から乾電池、磁気テープ部門が分離独立、マクセル電気工業株式会社として創業

1966 | 国産初 |

カセットテープ商品化

1976 | 国産初 |

フロッピーディスク商品化

1978

VHS方式ホームビデオカセット商品化

1981

コイン形二酸化マンガンリチウム電池商品化

1983 | 日本初 |

メモリバックアップ用塩化チオニルリチウム電池生産開始

1984

12型追記型光ディスクカートリッジICカード、メモリカード商品化

1987

世界最小径の酸化銀電池商品化

1989

コンピュータ用データカートリッジ商品化
放送局向け業務用テープ市場に本格参入

1995 | 世界初 |

光変調オーバーライト方式光磁気ディスク商品化

1996

リチウムイオン電池の生産開始

1998 | 世界初 |

書換型DVD-RAM商品化

2004

耐熱コイン形二酸化マンガンリチウム電池商品化

2005

車載カメラ用レンズユニット出荷開始

2008

リチウムイオン電池の安全性を高める耐熱セパレーターを開発

2017

独自方式の射出発泡成形技術「RIC-FOAM(リッチフォーム)」を開発

2018

医療・ヘルスケアパッチ向け電池「Air Patch™ Battery」を開発

2019

硫化物系固体電解質を用いたコイン形全固体電池のサンプル出荷を開始

2021

車載向けARヘッドアップディスプレイ商品化

2021 | 世界初 |

基板への表面実装可能なセラミックパッケージ型硫化物系全固体電池を開発

2022

「Advanced Floating Image Display (AFID)」(空間浮遊ディスプレイ) 商品化

イノベーションの歩み

1960-1980年代

**高度経済成長期に
数々の民生品を先行開発・発売、
国内外での開発・生産・販売体制を整備**

マクセルは1966年に、国内で初めてカセットテープの商品化に成功。1976年に国産初となるフロッピーディスクの商品化、1987年に世界最小径の酸化銀電池を商品化するなど、世界に先駆けて新たな価値を創出しました。創業製品である乾電池の開発時から培った「混合分散」技術に加えて、カセットテープで培った磁性粉を塗布する技術や筐体を成形する技術は、現在さらに磨きをかけて「精密塗布」技術、「高精度成形」技術としてさまざまな製品に活かされています。

また、京都に工場、技術研究所を竣工。海外では、米国・ドイツ・英国に販売拠点、米国・英国・マレーシアに生産拠点を設立し、グローバル展開に向けた体制の構築を進めました。



カセットテープ

フロッピーディスク

1990-2010年代

**高機能な情報記録媒体でデジタル社会を
支える一方で、事業の主軸を
民生品から産業用部品へとシフト**

1980年代末にはカセットテープ、ビデオテープ、フロッピーディスクなどの市場が縮小する一方で、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどが急速に普及しました。こうしたなかで、アナログからデジタルへの時代の変革を支えながら、事業の主軸は民生品から産業用部品へとシフトしていきました。

テープで培った技術を応用し、コンピューター用データカートリッジや業務用テープの市場に参入するとともに、1996年にはリチウムイオン電池の生産を開始しました。また、2004年にはTPMS(タイヤ空気圧監視システム) モジュールに使用する耐熱コイン形リチウム電池を商品化、2005年には車載カメラ用レンズユニットの出荷を開始し、その後の自動車ルート向け事業の足がかりとなりました。



業務用テープ

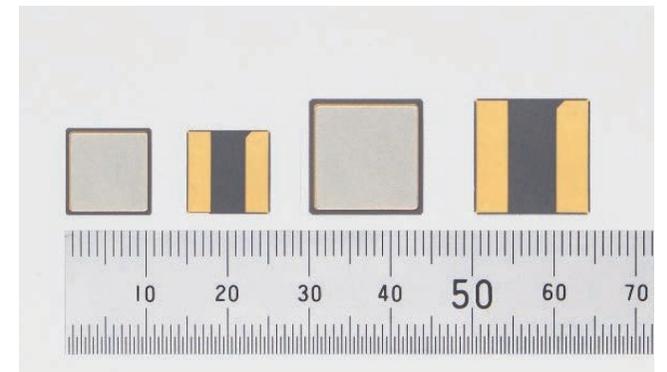
リチウムイオン電池

2020年代

**独自のアナログコア技術による
価値創出のさらなる強化**

2020年に「MVVSS(MISSION, VISION, VALUE, SPIRIT, SLOGAN)」を柱とする経営方針の見直しを行い、「独自のアナログコア技術(混合分散、精密塗布、高精度成形)で、社員・顧客・社会にとってのMaximum Excellenceを創造する」ことをビジョンとしました。新たな方針・体制のもと、次世代電池として期待される全固体電池の開発・商品化に注力し、硫化物系で世界初となる基板の表面実装への対応や、高電圧・高出力化を進めるなど、世の中のニーズに対し最先端の技術で応えています。

2013年以降新たにグループに加わったマクセルフロンティア、マクセルイズミ、マクセルクレハ、宇部マクセル京都とのシナジーを結集し、今後も独自のアナログコア技術で、持続可能な社会に貢献する新たな価値を生み続けていきます。



セラミックパッケージ型全固体電池